

知らぬ間に手にしていた怪しい売春広告——

そこには世界的に有名な女海賊——

通称"泥棒猫"の姿が写されていた……。

航海士の秘密アルバイト

～売春編～



その通りを行く者はまたたく間に売春婦たちにとり囲まれ、どこかに連れて行かれそうになるらしい。

なんとか腕を振りほどき囲いを抜けても、ポケットの中は無理やり押し付けられたチラシでいっぱいになっているという……。

そんな、一種の名所となっている風俗街を歩いていた時だった。

噂どおり揉みくちやにされながらほうぼうの体で通りを抜け、ポケットの中のチラシを処分しようとしていた時、一枚のチラシに目が留まる。

……信じられないことに、

それは今や世界中で有名となっている麦わら海賊団の一味が一人――、

泥棒猫ナミの売春広告だった。

扇情的な手配書が出回っている彼女の熱狂的なファンは  
かなり多いと聞く。

かくいう自分もその一人だ。

チラシの写真はその手配書を模して、同じポーズで撮られ  
ていた。

——しかし、彼女の胸元にはあるべき布が一枚もない。



写真の顔は目元が黒く塗りつぶされている。  
肩のタトゥーが偽物の可能性もある。

だが……、



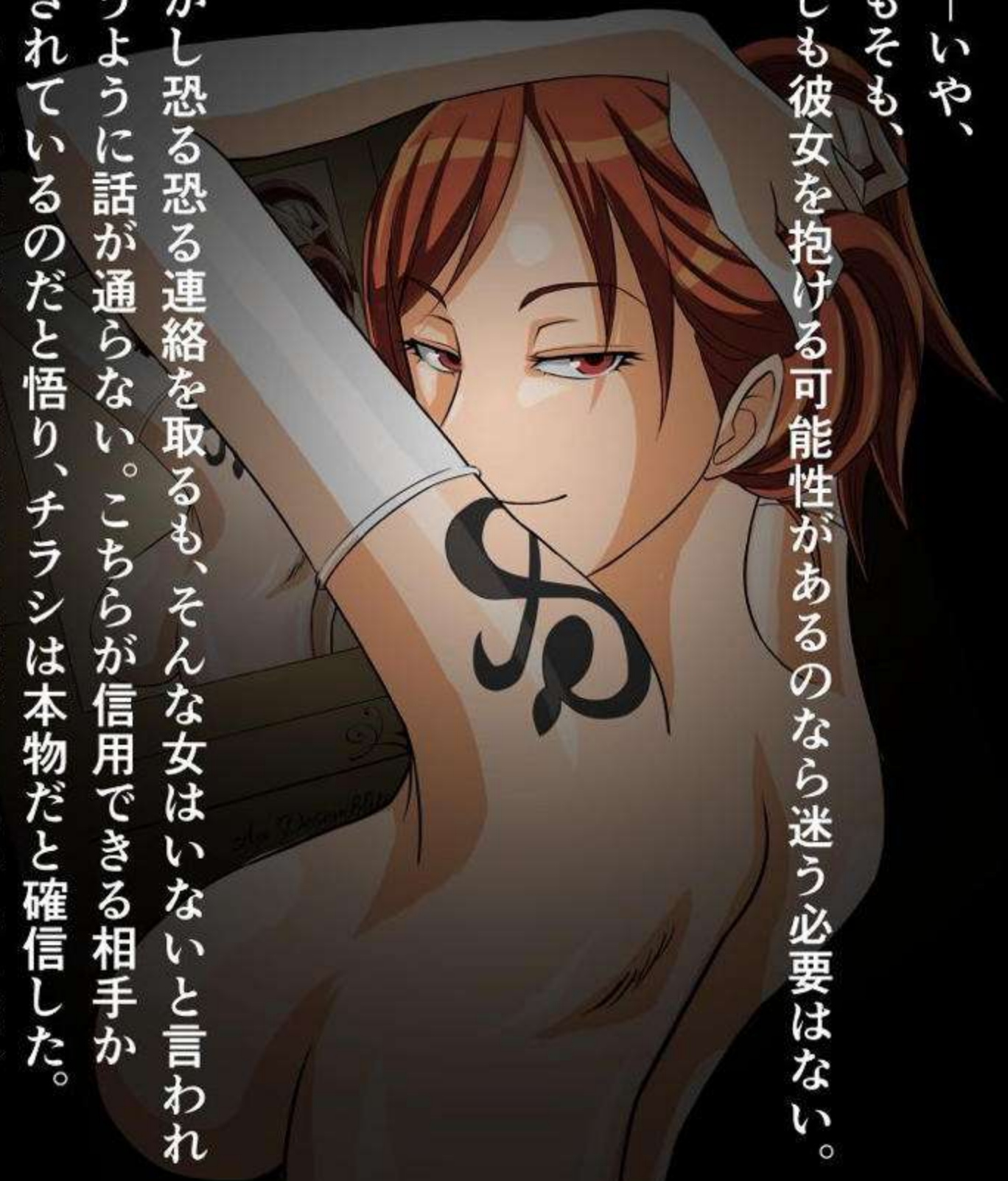
本物に違いないという予感があった。

根拠はなかったが、黒く塗りつぶされた目元の向こうにある表情をありありと思い浮かべることができた。

——いや、

そもそも、

もしも彼女を抱ける可能性があるのなら迷う必要はない。



しかし恐る恐る連絡を取るも、そんな女はいないと言われ  
思うように話が通らない。こちらが信用できる相手か  
試されているのだと悟り、チラシは本物だと確信した。  
そこからの「手続き」は煩雑かつ難儀なものだったが、  
なんとかかいくつかの条件をパスすると、指定のホテルで  
待つよう指示される。

とうとう本物のナミに会えるのだ、と次第に興奮が強くなっていた。



——どのくらい待っただろうか。

ドンドンドンドン。

と部屋がノックされる音がやけに大きく響き飛び上がる。

恐る恐る、しずかに、ゆっくりとドアを開くとそこに女が立っていた。



コートを着て、顔を隠すように大きなサングラスをかけているが——、  
間違いない——ナミだ。

コートの上からでも隠しきれないほどの肉体。  
サングラスをかけ、表情もないが、髪型やその他のパーツから、何度も写真で見てきたナミだと断言できる。



いま目の前に、あの憧れの女海賊、泥棒猫ナミがいる。

それも、クールガールとして。

……これは本当に現実だろうか。

あまりの驚きと興奮にあんぐりと口を開けたまま固まってしまっていたが、やがて目の前の女がニカッと笑う。



「お客さんね？」

「オーケー。じゃあ入れてくれる？」





「驚いた？ 私がこんなことしてるなんて……。まあ私がお金大好きなのは隠してないし、意外ってほどでもないかしら？」

「……もしかして、私のファンだった？」

「ふふ。うれしいわ〜。

私だってお客さんは選びたいじゃない？」

本気で私のこと好きだって人だけを取るようになってるのよ。その方が反応もすごく良いし、私もやりがいあるしね」

「……なあに？ まだ信じられないって顔ね〜。じゃあ……。もうこれはとっちゃおうか〜？ 付けたままがいいって人もいるけど」



「ハァ〜イ♪ じゃあ顔も見えたところで  
改めまして、ナミで〜す！ 正真正銘の本物よ！  
今日は指名してくれてありがと！  
実物はどうかしら？」

「期待以上？ ふふっ！ うれし！  
がっかりされなくて良かったわ。

今夜は楽しめそうね♡」



「じゃあ〜……。』

そろそろお待ちかねの時間といきましょうか。

さつきからコートの下が気になって仕方ないって  
顔よ〜？ ふっふっふ〜。

それじゃあ、あなたが払ったうん十万ベリーに  
見合う価値のあるナミちゃんの卑猥な体、  
じっくり堪能してちょうだい♡」



「じゃあ〜ん！ どお〜？

おっぱいが開放されてさっきより体のラインハッキリわかるでしょお？ ど〜お？ ど〜お？ 隠されてた分よけいに興奮するでしょお〜？ ふふっ、いーわよいーわよお。

その視線だけで体火照ってきちゃう♡」

「男たちに体見られるのはいつものことだけど、今日はどんなにいやらしい目で舐めるように見つめても睨んだり隠したりしないわよ？」

「それどころか、いつくからでもみせたげる。わたしの体思いつつ切り視姦して♡」





「ふふ、息が荒くなってきた☆ 目もそんなに  
血走っちゃって……あ！ 股間もちよつと膨らん  
できた？」

ああ、その熱い視線いいわよお、私もだんだん  
興奮してくるわ。

あ……♡ 乳首たつてきたかも……」



「それでええ？ 今日とはどんな風に私のこと犯すか  
ちゃんと考えてきました？ それとも本能の赴くまま  
にむさぼっちゃいたい？  
どっちでもいいけど、私はうんとやらし〜いのが  
好きよ？ 悦ばせてくれたら、サービスにも熱が  
入ると思うから、思いきりエッチに犯してよね！」



「さあ……まずはどこからいっちゃおう？  
おっぱい？  
お尻？」

「あはっ♡ やっぱり最初はおっぱいからあ？」

ニマ♡  
ヤッ♡

「え？ 頭の後ろで手を組んで欲しいの？  
それで、胸を張る……？」

ふふ、無防備なおっぱい思いっきり蹂躪したい  
ってことね？ んもうっ、変態なんだから！

でもいいわよおそいうの……。  
興奮してきちやう♡♡」





「ほおら？ これでららんでしょ？  
どう？ 興奮する？」

ゆっ

ドキ  
ドキ♡

ドキ  
ドキ♡

「もう♡ あんまり熱心に見るから私の方が  
興奮して体熱くなってきちちゃったじゃない♡  
ねえ、脱がせてえ？」



「ああん♥ 夢にまで見たナミちゃんのおっぱい  
出ちゃったわよお。間近で見る生おっぱいど〜お  
〜? エロいでしょう〜? ふふっ♥」

ビーン

ズルん

ドキ  
ドキ

ドキ  
ドキ

ビーン♥

「誰でも見れるわけじゃないのよ〜? おめでと♥  
それで? 次はどうしてくれるの?  
だんだん私も待ちきれなくなってきたわ。  
ほら早く……やらしいことしてえ♥」



「んんっ♡ やっぱり後ろから驚掴み？

そうよね、こんな爆乳見せられたら思い切り揉み  
しだきたくなるわよね？ あんっ♡」

がし

ビクッ♡

「気持ち良いわよ。私おっぱい感じやすいの……♡  
あなたはどうか？ 手に収まりきれないほどの  
おっぱいの揉み心地は？ 気持ちいい？ 幸せ？」



「ああ〜ん♥ どうとう乳首? 乳首らじり

しちやう? そうよ、さっきから乳首らじりって  
ほしくてうずうずしてるの! らじりって!

ナミの淫乱乳首早く弄ってえ♥」

キュ  
キュ  
キュ

バグ  
バグ  
バグ

キュ  
キュ  
キュ  
キュ  
キュ  
キュ

「あんっ! いい!

気持ちいい…んっ!

ああっ♥ つまんでしこしこしないでえ!

しこしこダメエツ!

乳首でイッちやう!

アへっちやうからあっ♥」







「んんっっ!! ひょりー! ちやならぬ……んんっっー!  
おんっー! ぶりー! おんっー……ぶっー!  
うっ……! うっ……んんっー!」

「んんっ! め……ぶほおっ!!」

もごっか  
か  
か

ぶひん

かり

か

「んんんん……んん……!」

「んん……んん……んん……!」

「んんんん……んん……んん……!」

びん

び

♡」





ドビッ  
ゴポッ  
ドビッ

「んんん」  
「!!!」

ドビッ  
ゴポッ  
ドビッ

ドビッ  
ゴポッ  
ドビッ







「えっ！ ちよつと……！ まだする気なの？」

「もういいでしょお？ 私ホントにおっぱいは

弱いんだから……って、あん♡」

ビクンッ

カッ

「まさか時間いっぱいおっぱい感じる気じゃない  
でしょうね？ いいかげんに——」











「あはあぁ♡ もうらめえ...♡  
 おっぱいはっかかりだめえ...♡  
 男ってホントに...おっぱい大好きなんだから...!」  
 んっ...はあっ!

あぁ♡ あぁ♡ あぁ♡  
 あぁ♡ あぁ♡ あぁ♡  
 あぁ♡ あぁ♡ あぁ♡

「だからってずうっとこんなっ...!  
 おかしくなっちゃう...!  
 だめだめだめホントにっ!  
 あはあ♡  
 あっ!  
 ダメっ!  
 あっ♡ あっ♡ あっ♡  
 あっ♡ あっ♡ あっ♡







「んもう……♡」

二時間もおっぱいはっかかり熱心にいじって……。  
おかげで何もしてないのに足腰がくがくよ。  
私のファンってあなたみたいなおっぱいマニア  
の変態ばっかなのかしら……?」

「でも、ま、私のこと本当に好きな人にされるのは  
イヤじゃないし……情熱的ってことにしといて  
あげる♡」

かがく  
かがく

がく  
がく

「じゃあ今度は攻守交替よ。私の凄テクであなただを  
ヒイヒイ言わせてあげる。

お金だしてもらってるんだから手なんか抜かない  
わよ。お金も精子も搾り取るんだから♡」

「ほら、さっさと横になるのよ!」



「ふふ、どう？ 下半身押さえ込まれて主導権なくなっちゃった体勢は……。この、チンポがまな板に乗ったような状態……。たまんないわあ……。！  
ゾクゾクしちゃう♡」

「さっきはよくもまあ好き勝手にやってくれたわよね。ここからは私のターンなんだから……。覚悟しなさいよー？」

「途中で泣いてもやめてあげないんだから」

「さあて……。どーんなふうに

いじめてあげようかしら……。？

ふふっ、楽しみね♡」



「ほらほらあ、早くオチンポ味わわせてえ♥  
強引に喉でしごくイラマチオもいいけど、  
私任せでじっくりね〜っとり攻められるのも  
気持ちいいってことわからせてあげる♥」

「そのためにはオチンポ勃てて  
くれないとお、

なめなめできないわよお?」

ニヤ

ニヤ

「世界中の海を股に掛けて  
磨いてきたナミさんのドスケベ  
おしゃぶり…体験できないまま  
死にたくないでしょお?」

「そんなの何のために生まれてきたのか  
わかんないもんねえ?」



「やっぱり男に生まれてきたからには、私みたいな淫乳美人にオチンポマウントポジションとられてえ、苛めぬかれないでしょ？」

「だったらあ……は・や・くう♡」

「あーん♡」

ドキドキ♡

じゅる♡

待ちきれなくて、うずうず

よだれ零れちゃうー！」

「この巨乳を押しつけて

ピンピンオチンポ出してくれたらあ、

私の発情よだれサービスしてあげるからあ♡」

「ほらあ、がんばって♡」



「あ〜ん出てきた出てきたあ！  
良い子ねえ〜♡  
元気なオチンポってだあい好きよお♡」

「じゃあご褒美にエッチなナミお姉さんが  
懸賞金1600万ベリーの淫乳でいーっぱい  
かわいがってあげ〜る♡  
良かったわね〜？」



た〜るっ





「まずはこのオチンポの弱点を調べちゃうわよ〜？  
生意気にピクピクしちゃうってるこのオチンポの  
弱点は〜……。」

ここかしら？

それとも……こっち？

さきつちよの穴のところかなあ？

…っふふ！

全部ビンゴ？

反応良いんだからあー！

わろっ

わろっ

ピクッ

ピクッ  
ピクッ

「ううん……私、感度の良いチンポも大好きよ。  
もっと可愛がってあげたくなっちゃう♡」

「だ・か・ら〜。」

先っぽ、舌先でチロチロしたげるね。

逃げてもダメよ〜？

おっぱいでがっちりホールドしちゃうんだからっ」



「ほおくら、これでもう逃げられないわよお?」

「ふふふっ、どお? 気持ちよすぎて辛い感じ?」

もっとカリ首擦ったり裏筋舐めたり色んなとこして欲しい? ダメより?

私のおっぱいだってあんなに好き放題いじくり回したんだから、

私も好きにやっちゃうわ!」

ニタァ...

ズズズ

ズズズ

ズズズ

オオオ

ズズズ

ズズズ

ぐん

「そうねえ...このまま一時間くらい鈴口だけを徹底的に苛めちゃう『尿道責めの刑』...」

ってのはどう?

そんなことされたことないわよね?

未知の快感が味わえるかもしれないなんて...

楽しみでしょう? クスクスッ♥」



「あつらあ？」

そおんなに体ビクビクさせちやてえ、  
どおしたのお？

もしかしてもうイツちやいそうなのお？  
まだ30秒も経ってないわよお？

ふふっ♡

れろろろ

ビクビク

ニッ

びびり

ビク

ビク

ビク

「ああん♡ もう、本当に!? 本当にイツちやうの？」

イツちやうの？ ふふっ……。

いいわよお、我慢なんてしないで……。

私の舌で気持ちよくイツちやってえ♡





「お風呂♡」

トハトハトハ  
ジュジュジュ  
ググググ

パキパキパキ







「男を『支配』してるって感じがしてすごくいいのよね……アレ。ふふっ、あなたも頑張らないとフェラだけで終わっちゃうわよ〜？ たっかーいお金払ってるのにね〜？ クスッ♡」

「あ、でも、一滴もでなくなっただけからでもイキ続けて失神したお客さんはすっごい幸せそうだったわね♡ごっちゃん♡」

「マァー」

「ピクッ  
ピクッ」

「ピクッ  
ピクッ」

「あなたも私のお口の恋人……ううん。奴隷になってみる？」

「あら、ごめんなさい。しゃべり過ぎちゃったわ」

「じゃあおしゃべりの続きに戻るわね♡」









ドク  
ドク

ドク  
ドク

ドク  
ドク

ドビッ  
ドビッ

ドビッ  
ドビッ



「はあ〜………一発目じゃないのにすごい勢いねえ。  
私のお口、オマンコと勘違いしてたのかしら？  
……ってくらら。ふふ」

「射精するときにはチンポがビクンビクンって  
震えて、吐き出された精子が喉の奥を  
叩く感覚はやっぱりたまんないわね………」

たら女〜

「精子の踊り食い……最高だわ  
あなたも最高だったでしょう？」

「じゃああと一時間くらい  
オチンチンしゃぶしゃぶしようねえ？」



「ふう……おいしかったわあ♡  
ごちそうさま♡」

「いっぱい楽しめたわねえ？」

「何発抜いたかわかんなくなっちゃった♡  
濃厚精子汁飲みすぎちゃってお腹いっぱいよ♡  
クスッ」

「あら♡  
ハァ♡  
ドローネ…」



「もう残り時間もあと少しだけどうする？  
本番する？」

「けっこう前戯だけで体力尽きちゃうお客さん  
多いのよねえ」

「まだイケる？」

「ふふっ。そうこなくっちゃ♡」



「えっ? なあに〜?」

さっきみたい頭に後ろで手を組んで欲しいの?  
もお、好きねえ。ふふっ、いいわよお。そういう  
エッチな注文にはいくらでも答えちゃう♡  
「それじゃあ待望の最高級マンコで  
オチンチン天国に連れてってあげるわね。  
は〜い、ずぶずぶずぶずぶ♡」

ずぶずぶ♡

ずぶずぶ♡

ゆ

ぶるん♡

♡

「あん♡ オチンポお…  
入ってくるう…!」



「ああ〜あ♡ 私の体で破裂しそうなくらい

ギンギンになった勃起オチンポがオマンコ肉

ずぶずぶ割って入ってこくる感覚……何回やっても

たまんないわあ♡効くう……♡」

「アナタはど〜お？」

毛の生え揃ってないお子ちゃまから、

ちよつとやそつとじやピクリともしない枯れ際の

おじいちゃんまで……♡

世界中のみ〜んなから

オナペットにされてる

アイドルのオマンコに

自分のチンポ挿れられて

嬉しい？」

ずぶずぶ

ぬちぬち

ぐらん♡

♡♡♡

「あなたも私のこと想像して

何度も何度もオナニー

シコシコしてたんでしょ？

嬉しすぎてイッちゃう？」



「イきたかったら我慢しないでいっていいのよ？  
今日は我慢なんて禁止なんだからね♡」

「イっっちゃったら」

チンポでもアナルでも舐めて

また何回でも勃たせてあげる♡」

じゅわん  
じゅわん  
じゅわん

ざわん  
ざわん  
ざわん

ざわん  
ざわん

ざわん  
ざわん  
ざわん

「あんっ！」

でもこれっ……！！

私のほうが先に

イっっちゃうかも……♡」



「んん〜っ！ ハアッ！

やっぱり……セックス気持ちいいっ♡

チンポ……最高っ！！

「あなたはどろう？

思い切り揺れるおっぱい

見ながら味わう

オマンコは？」

「あっ♡ はあん♡」

ぶるる

♡♡

「おっ……！  
おっおっおっおっ！  
おうっ……！！」

「おっほおおおっ♡」

ずちゅ  
どちゅどちゅ

ドゥッ





「ちよつとお……！ チンポで返事しないでよ……。

軽くイっちゃったじゃない……♡ まあでも私

みたいな良い女抱けて最高じゃないわけ」

「ああん!! また乳首いつ?」

ちよつとっ……!!

引っ張らないでえっ!

挿れられながらの乳首は

ホントツ……あっ!

ダメだっで……!

あああ♡

びり

ぬっほ

ぬっほ

「こんなのっ!

すぐイっちゃうでしょ!

あん♡

ダメダメダメエツ!

びり

びり

びり

びり

びり









「……だめっ……！」

「……♡……」



「ツハア……ハッ……ハア……！」

もうっっ……今の……反則でしょっ……！」

「両乳首思い切り引っ張られながら

中出しザーメンで子宮

打ちつけられたりしたら……」

女の子はみんな

アへっちゃうんだからあ♡

オチンポのことしか考えられないの、

牝になっちゃうでしょお♡」









「ちよつと待って！」

今また突かれたら

ホントにどうにかなつちやうって……」

がし

びくッ

お

「バカになつちやう  
からあああッ!!」





「あっ……おっ……おっ……！」

ずずず……

ずずうっ!!

「おおおおっ!!」





「あっあっあっあっあっ！」

「うーうそよ嘘！ やめないでっ！ オチンポ

抜いちやダメエエツ！！ 本当はさっきの

オマンコに火がついてたまらなかつたのよおっ！

足腰立たなくなるまで何度も何度も犯されてえ、

子宮いっぱいザーメン詰め込んで

お持ち帰りしたかったのおっ！

「だからっ——！」

延長でも何でもいいからっ！

あなたのオチンポで

私のオマンコ慰めてえっ！」

「あああっ！」

オマンコいいっ！

元気いっぱいのオチンポ

嬉しいのおおっ♡」

「あっあっあっあっあっ♡」







「あああつっ！ おしりっ！いいいいっ！」

「ちよつとおつ……いきなり何すんのよおつ！」

「勝手なことするのもいい加減に……」



「あああつっ！ そうよ嘘よおっ！」  
嘘だからやめなくていいのおっ！  
やめないでえっ！」

「私がお尻叩かれて感じる変態女だったって  
ことくらい見ればわかるでしょおっ！」

アアアアア  
お

「お尻思いつきり叩かれ

ながら突かれるの  
好きなのおっ！」

「真っ赤になっても

いいからもっと

お尻叩いてえっ♡」





「あああああぁあぁ!!

きぼちいっ♡

気持ち良すぎるのぉおっー!」

ジジ  
ジジ

「体中の神経繋がって

お尻叩かれるだけで

乳首も子宮も

全身感じちゃう

のぉおっー!

「こんなの……」

もぉ……無理……♡















「最

高

♥

「

ハッ

「あ...あ...あ...」

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ

お

ビクッ

ビクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ







「もう……何回も出してやるの……  
まだそんなに出るの……？」  
「じろめ……」

ドビュドビ

「ううん……嬉しいわ。

好きなだけぶっかけていいから  
キンタマ空っぽにしてえ……」  
♡

ドビュドビ

「あっついドロドロの精液化粧で  
私の体きれいに飾り付けてえ……」  
♡









「もう……!!」

ほんっと好き放題やってくれるんだから……!!」



ビュッ

ゴト!



んあ……

またこんなに……

嬉しいら……

♡♡♡♡♡







「はぁ〜いい♡  
ホントはお金よりオチンポとザーメンとセックスが大好きな淫乱女海賊のナミですっ♡」

「今日は私の大ファンのお客さんに一晩中犯してもらいましたあ♡  
胃にも子宮にもいっぱい精液詰め込んでもらって

まあす♡  
♡

ぐちゅ

「これがオチンポもザーメンもたくさんプレゼントしてもらって最っ高に幸せな変態メス豚の顔です♡」

しゅっ♡



「ふふっ♡ 写真は他の人に見せちゃダメよ」

「ああ……でも、目線入れてくれたらアリかもね。誰も本物の私だなんておもわないでしょ」

「じゃあこれで今度こそ終わりね」

オ

♡

「あそうだわ」

♡♡♡

ド…ド…ド…

♡♡♡



♡♡♡  
むん♡

あっ

「今すっごくエッチな気分だから、体中にザーメンつけたままコートとサングラスだけで帰ってあげよっか？ せっかくこんなにマーキングしてくれたのに、流しちゃうのはもったいないもんね♡ どう？ セックスした女が自分の精液体につけたまま街中歩いてるなんて……考えただけで興奮するでしょ？ ふふっ♡」



「あはっ♡ こんなことして、本当に変態ね、私♡」

「コート以外の服は全部あげる♡ 初回特典って

やつね。好きに使っちゃっていいわよ？

たくさん使ったら見せて欲しいわね。クスツ♡

じゃあ私はこれで帰るけど……ああっ♡ でも

こんなカッコ人に見られたらって考えると最高に

ドキドキするわ♡

たっ♡ ドキ♡ コ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

ドキ♡ ドキ♡

「じゃあ、またのご指名待ってるわよ」

「でもたあっぶりザーメン溜めてからじゃなきゃ

だめよお？ それから……私をとびきりエッチに

犯すプランも忘れないでね♡」

たっ♡

っ♡





1 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



AAA  
N.A.M.I  
1111/55/99  
AAA  
\$ 900,000-  
\* Action plan d'ici d'aujourd'hui

#1  
#2  
#3  
#4  
#5  
#6

Au D'ensemble beharsamele au las suimustly rouspe  
Lymuans dou de ralssembage baism Prinsvate  
Candmasette les koppa se Ets nei haque me de Epe  
acice maud Passag nar de paupust!!

By club uait 24 palais nec y usula S'acel'fob' du  
polarise palette la la d'indites. Au de un la que  
pupel hodes nec nar la rouspe  
Ad'age' anhem by

1111/55/99





111155199

N.A.M.I

111155199

111155199

฿ 200,000-

\* Acharfket dices d'and moi



Au Desembliti bebarsamols au las saimustly marriage  
Lymuams dou de rolssombago baism Prinsmata?  
Candinasetts los no ppa sa Ets noi haqqe noi de Epa  
scico mad Passay nar de pumplies!!!

Ly ciub noi P.A. palais noi y issala Saed Yalce hulla  
gulassse palotta ba teid moultas dou de unlyque  
pyped hehas cas nor la sarraze  
Ailugh nclan by

08913-6457-9729











































































































































































































































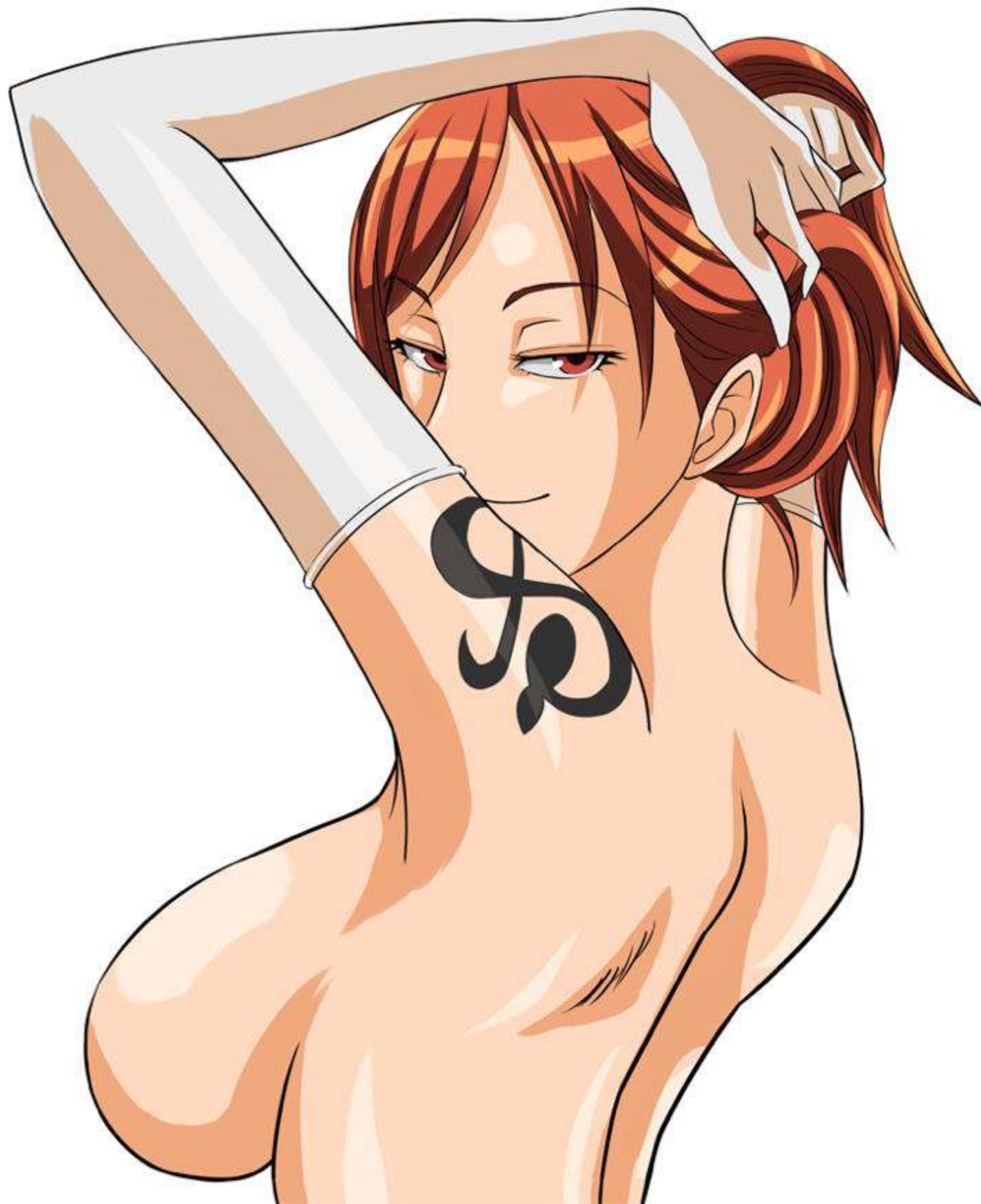




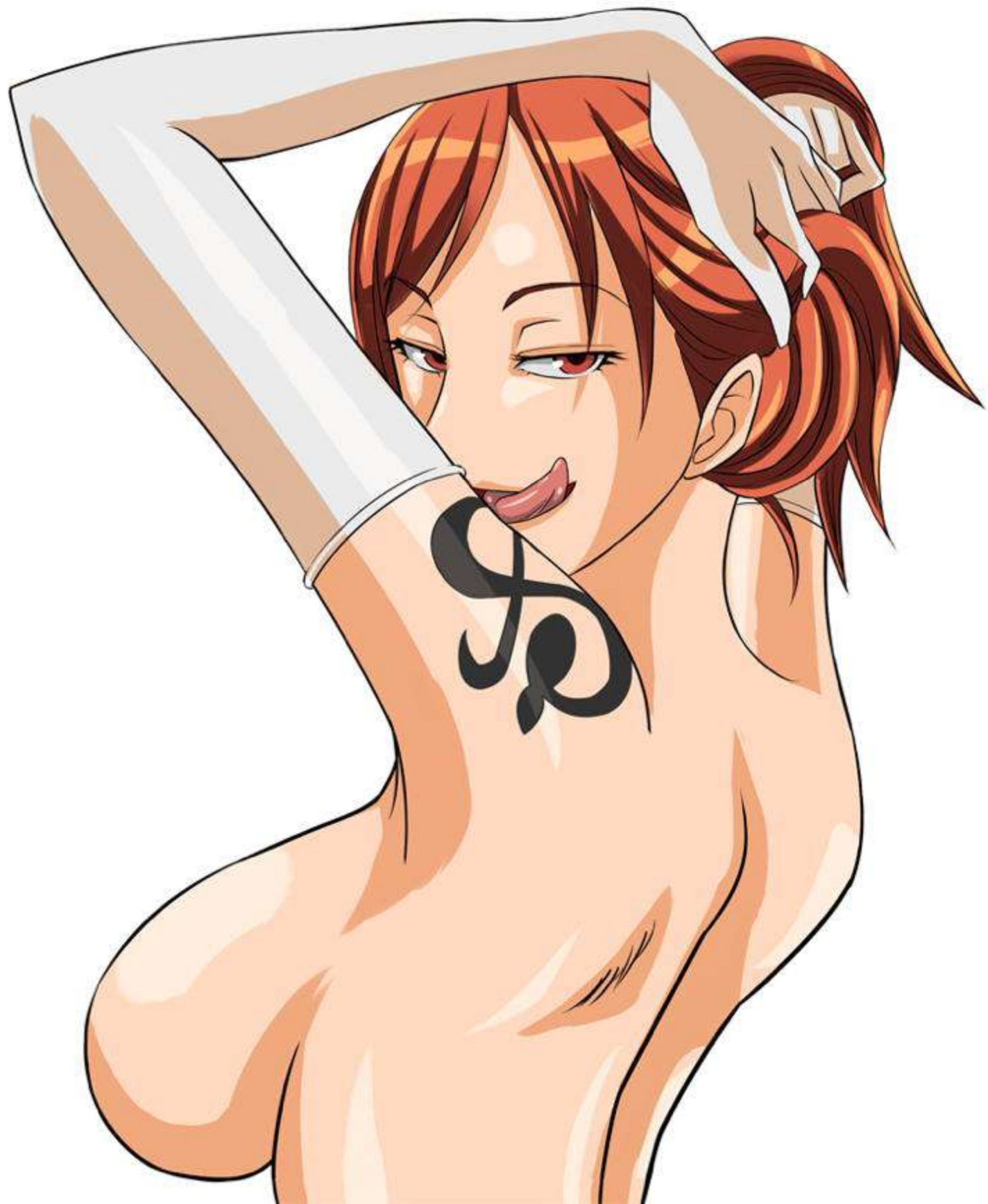














みんなのザーメンアイドル  
ナミごんすけ  
今日は  
たくさんがさね  
ちゃった♡

Nami♡





















